

■鷹見泉石 古河藩家老。蘭学者。一歩先の日本を眺めた開国論者で、藩主を全面的に補佐しながら、多くの業績。

たかみせんせき

蝦夷初調査・1785＝ 古河城内の土井氏累代の家臣の家で、用人役の忠徳の長男に生まれる。

田沼意次失脚1786＝ 1歳：

幼少期、同藩蘭医河口信任に啓発され、

松平定信引退1793＝ 8歳：

ワシタ^テ 正月・ 1794＝ 9歳：

ポ^ートン来航・ 1796＝11歳： 藩主土井利厚が寺社奉行に就任し出府に伴い、父に従って江戸に出、
昌平黌始・ 1797＝12歳： 江戸詰小姓となり、給仕として出仕する一方、大槻玄沢門から蘭学を始める。

宣長没・・・ 1801＝16歳： 世子利位付き近習に転じ、

アメリカ船来航始1803＝18歳： この頃から、洋学に親しむ。
天文・暦数・地理・歴史・兵学・食物・博物の学とその資料収集に努め、渡辺崋山・司馬江漢・箕作阮甫・高島秋帆・江川坦庵(太郎左衛門)・川路聖謨・杉田玄白・同成卿・坪井信道・桂川甫賢・同甫周・同甫安・宇田川榕庵・石川桜所(良信)・佐久間象山・大槻磐溪・土井利忠(越前大野城主)・ヤン=コック=ブロムホフ(泉石は同人から蘭名ヤン=ヘンドリック=ダブルを貰う)らに交わった。

ワシ^タ船狼藉・ 1807＝22歳： 父の死で家督相続、

高田屋拿捕・ 1812＝27歳：
浮世床・・・ 1813＝28歳： この年、*土井利位が藩主の嗣養子に迎えられると、利位に自然科学の蘭書を講じ、
黒住教・・・ 1814＝29歳： 利位が顕微鏡による雪の結晶の観察を開始、

水野忠成老中1818＝33歳：
江戸在住時代に利位・用人枚田水石とともに谷文晁に入門。大黒屋光太夫からロシア語を、中浜万次郎から英語を学び、別に華語も独学した。

伊能図完成・ 1821＝36歳：

英船浦賀来航1822＝37歳： 利位が家督を継いで古河藩主となる。

シ^ンボ^ウ 来日・ 1823＝38歳： オランダ里程法に学んだ「日光駅路里数之表」を刊行、

公人としては藩財政を建て直し、

富籤流行・・・ 1830＝45歳：
富籤三十六景1831＝46歳： 家老に進む。
鼠小僧磔・・・ 1832＝47歳： 利位が世界初の雪結晶図譜「雪華図説」を刊行することになった。

高島砲術・・・ 1834＝49歳： 大坂城代となった利位に従って、大坂に出、

大塩平八郎乱1837＝52歳： <大塩平八郎の乱>で、大塩父子召捕りを指揮し、感状を受ける。
適塾オープン・ 1838＝53歳： *江戸に戻る。利位が老中に進むと、泉石も幕政の裏面に動き、幕閣における藩主を支えた。渡辺崋山筆「鷹泉石像」(国宝)は、この乱の平定に功を立てた利位が菩提寺である江戸浅草誓願寺に泉石を代参させた折の姿を描いたものであるという。

蛭社の獄・・・ 1839＝54歳： 泉石に親交のあった渡辺崋山が、蛭社事件で捕えられたため、関係資料を焼却してしまう。

収集する地図千枚、中でも北方問題には関心が深かく、

阿部正弘首座1845＝60歳：

孝明天皇・・・ 1846＝61歳： *主家の嗣子問題で直言し、藩主に隠居させられた。古河に戻り、地理研究に打ち込み、政務の集忙を離れて、

・・・ 1848＝63歳：

北斎没・・・ 1849＝64歳： 「新訳和蘭国全図」を著わして、

万次郎帰国・ 1852＝67歳： 刊行、唯一の単行オランダ図となる。

ペリー来航・ 1853＝68歳： <ペリー来航>に際して、幕府に提出した古河藩の建言書「愚意摘要」(開港通商し洋学を入れ、至急洋式軍備を断行することを建言)を起草。高島流兵術を卒先採り入れた。

蕃書調所・・・ 1857＝72歳：

五ヶ国条約・ 1858＝73歳： 古河で、*膨大な蘭学資料と、文化2年から安政5年まで、半世紀を越える「泉石日誌」、各方面からの2千通の書簡を遺して、没した。
海防強化の時節、蘭学者に親しみ、天文方や阿蘭陀通詞、兵法家高島秋帆・佐久間象山、漂流者大黒屋光太夫や中浜万次郎らとも交際するなど、当時重要な人物を最も多く知っていた1人であった。